

## インドで作る ナarendra・モディ インド首相 講演概要

3 回目の訪日となったインド首相の講演（主催：日本経済新聞、ジェトロ、於：9 月 2 日 ホテルオークラ東京、午後 3 時 10 分-午後 4 時）概要をご参考まで下記します。

世界のビジネスに通暁した首相の講演らしく、企業人にとっては、非常に説得力のある熱の入った講演でした。

### 1. ルックイーストポリシー、日本のルックインドの証拠か？

インドは、ルックイースト政策をとっている。本日の講演会には、4000 名の申込みがあり本日は、2000 名のビジネスマンの出席があったと聞いている。日本人ビジネスマンが多数出席したのは、日本のルックインドの証拠だと考える。

### 2. 日本企業は、インド市場のみ注視すれば良い。

今回、3 回目の訪日となった。安倍首相との会談で以前にも増して日本とのビジネスの可能性が高いと確信した。（本年 5 月）首相に就任して「メイクインインディア」のビジョンを掲げた。私の小さいころメイドインジャパンと言われ日本の製品の品質が良いことを知っていた。日本にとっては、今、低コスト、低価格、質の良い人材が必要。インドは、日本企業にとって最適な条件を満たすことができる。インドに日本企業が来れば、10 年かかったものが、2 年間で達成できる。インドを神様から恵んでもらった国と考え、インド進出を検討して欲しい。インドに来れば、インドから西側（中近東、アフリカ等）にも輸出できる。（スズキがグジャラート州に第三工場を建設するが、現在の北の工場からグジャラート州に車を運び、輸出すると）一台、2000 ルピーの国内輸送費がかかる。輸送費を節約するために、グジャラート州へ進出するよう鈴木修会長を説得した。

### 3. 規制の緩和

首相に就任して 100 日間で 55% の商品の規制緩和を行った。防衛産業では一般トラックの購入も規制の対象であったが、自分が首相になってから規制をはずした。防衛産業に関しては、海外企業の投資を可能にした。外国の企業には、Red Tape（官僚的形式主義）と呼ばれる官僚主義がある。しかし、Red Carpet（特別な歓待）を引き、日本企業の皆様の進出を歓迎している。

### 4. 安定した成長環境が日本企業には、必要。

例えばインドは、今後 50 の都市でメトロの建設が計画されている。メトロプロジェクトには、車両、信号等で日本企業にも膨大なビジネス機会を提供している。一つの国で 50 件のメトロビジネスを提供できるのは、インドだけではないか。

## **5. 特に日本の中堅、中小企業のインド進出を首相として支援**

価格競争力と高品質の提供には日本の中堅、中小企業のインド進出が必要だ。インド政府として進出を支援する。

## **6. 21世紀は、アジアの世紀、アジアは世界経済の中心地**

海外進出には、三つの条件（1）民主主義 2）人材の供給 3）需要）が必要である。三つの条件を提供できるのは、インドのみである。需要について言えばインドは12億人の人口があり、65%が35歳以下だ。大きな需要を提供できる。インドは若い能力のある人間が豊富にある。政権について、100日でGDPを4.4%増から5.7%増に押しあげた。

## **7. インドのソフト力と日本のハードウェアの協働が必要**

インドは若い能力のあるソフトウェア人材が豊富、日本のものづくり技術を組み合わせれば世界最強の製品を提供できる。インドはエレクトロニクス製品の輸入が大きい。国産化したい。

## **8. 日本企業からの質問における首相の回答**

- 1) (自身が州の首相を務めた) グジャラート州では、大きな地震があった。地震後官民共同によるインフラ投資事業をおこなった。州民の参加を得て、力を合わせて復旧に努めた。
- 2) インドでは、50都市でメトロ建設の計画がある。信号、電子部品、機関車などで日本企業に大きなビジネス機会がある。
- 3) 携帯端末も大きなチャンス。新製品がでるとインド国民は新製品に切り替える。電子部品も大きなチャンスがある。
- 4) 農村部のデジタル化も進めたい。再生可能エネルギーでは、太陽光発電事業への投資も歓迎したい。屋根に取り付ける太陽光発電も進めたい。
- 5) 大学、専門学校において進出した日本企業向けの技術者の訓練を行い、日本企業に提供したい。グジャラート州に進出するスズキには、ITI（技術者養成学校）で訓練したインド人を提供することにした。

## **8. 鈴木修（スズキ 会長兼社長）歓迎挨拶**

- 1) 1982年インドでの自動車生産に踏み切った。インド政府、国民の支援を得て年産120万台を達成するに至った。インドから海外にも乗用車を輸出している。
- 2) インドは大きな大国、民主主義国家である。
- 3) インド経済の発展に期待し、2017年半ばにグジャラート州の新工場を稼働させる計画。

- 4) グジャラート州に進出をするのは、電力が豊富であることだ。同州は、他の州に電力を供給している。グジャラート州の新工場は、自家発電設備を設置しない。
- 5) インドは、1990年より外国直接投資の緩和、経済改革を実施した。インドには17の言語がある。インドの紙幣に言語が書かれてある。州によって文化、風俗習慣が異なる。インドは、EUと同じと理解すればよい。
- 6) 前首相が日本を訪問された際、東京、浜松、名古屋で講演を行っていただいた。浜松では、404名の参加があった。インドのマルチスズキからのインド人出向者が当社の浜松工場で135名働いている。浜松工場訪問の際、首相には、インド人出向者と親しく懇談された。首相は人情味のある人だと思った。
- 7) 日本の中小企業であるスズキがインドで年間120万台の乗用車を生産できるまで成長できたのは、インドに進出して良かったあかし。日本企業にあっては、日本とインドの架け橋になって欲しい。

作成：開発部長 西橋時男 2014年9月3日